

科目名		建築デザイン実習Ⅰ			
担当教員		中野 聖奈		実務授業の有無	
対象学科		建築デザイン科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	単位数	1.5	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		<p>年々進化を続け、新たな建築業界の主流になる「BIM」というツールを学び、身に付けていく。オートデスク株式会社のBIMソフト「Revit」の基本動作から、自分の表現したいことを適切に表現する方法や、実務で使える豆知識などを学んでいく。</p> <p>後期では、オリジナル木造建築物のモデリング、及びコンペティション作品のモデリングを行う。表現したいことをどうすれば表現できるか諦めずに模索してほしい。</p>			
学習目標（到達目標）		<p>基本動作をマスターする。</p> <p>オリジナルの作品を自由にモデリングできる。（併用住宅程度）</p> <p>Revitを用いて作品を適切に表現ができる。</p>			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		はじめてのRevit&Revit LT			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	課題①オリジナル併用住宅のモデリング・表現方法			1年次前期に取り組んだ住宅計画演習の課題（喫茶コーナーのあるケーキッシュ併用住宅）のモデリングを行う。	
2	基本動作の確認			担当教員のデモンストレーションを参考に基本動作を確認し、オリジナルの課題に反映させることができる。	
3	課題②コンペティション作品のモデリング・表現方法			建築設計演習Ⅰで取り組んだコンペティション作品のモデリングを行う。	
4	モデリング表現の向上			表現したい内容について、各自で方法を模索しながら自由なモデリング表現ができるようになる。	
5	スケジュール管理			自分の作品に対して、自分でスケジュール管理ができるようになる。担当教員と相談し、スケジュールを見直しながら課題の締切にきちんと完成させて提出する。	
6					
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
課題内容	課題提出締切			<p>「BIM」は、建築業界及び自分の可能性を広げるツールです。中でも「Revit」はこれから主流となっていくであろう重要なソフトの一つです。それを学生のうちに使いこなせるようになっておくことと社会に出たからの活躍の幅が大きく違うはずですが、ぜひいっぱい触って、楽しみながら技術を身に付けましょう。</p>	
85 %	15 %	%	%		
成績評価基準は					
A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		意匠設計実務4年			